

## 令和 5 年度秦野市水道事業及び下水道事業の決算概要

## 1 水道事業

## (1) 総括

安全な水を安定的に供給するため、水質管理や自己水源の確保に加え、管路の耐震化や災害時対策など、水道施設整備計画に基づく事業を着実に推進しました。

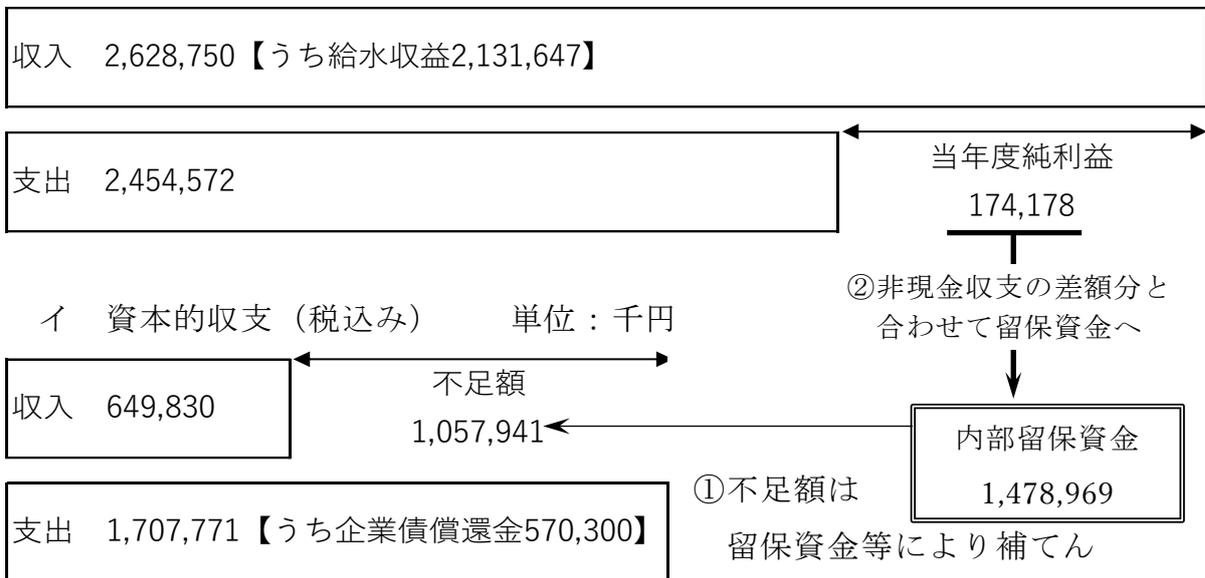
また、10月1日には、水需要の減少を背景に水道料金収入が減少する中、将来にわたり持続可能な水道の実現に向けて、大規模地震に備えた水道施設の整備等を着実に進めるため、水道料金を改定しました。

事業の主たる財源である水道料金収入（給水収益）は、前年度に比べ約 5 億 4,900 万円増の約 21 億 3,200 万円となりました。この大きな要因は、令和 4 年度に水道料金の減額措置を行ったことによるものです。この減額措置を講じなかった場合と比較すると、有収水量は減少していますが、料金改定により、約 2,500 万円の増収となりました。

## (2) 決算状況

## ア 収益的収支（税抜き）

単位：千円



収益的収支は、水道水をつくり、家庭などに送り届けるために必要な支出と、その財源となる収入のことです。収入は、主に水道料金などの事業収入です。

資本的収支は、水道施設を新たに建設したり、整備・改良するために必要

な事業費とその財源です。収入は主に国などからの補助金や借入金、工事負担金などです。

(3) 主な事業成果

ア 原水浄水の管理

配水場、浄水場、取水場等の施設を適切に維持管理し、水道利用者への安全な水の供給に努めました。

イ 配水給水の管理

計画的な漏水調査の実施に努め、漏水が発生した場合は迅速に対応するなど、約 730 キロメートルの配水管等を適切に維持管理し、安定した給水を実施しました。

ウ 管路の耐震化と更新

堀山下地区などで進めた 3 件の工事による約 180 メートルの基幹管路、今泉地区などで進めた 6 件の工事による約 1,110 メートルの幹線管路、今泉地区などで進めた 1 件の工事による約 100 メートルの配水管路を耐震性のあるものに布設替えしました。

エ 施設の耐震化と更新

配水場及び取水場について、7 件の施設・設備の更新工事を実施しました。

オ 第 5 次拡張等整備

今泉地区などで進めた 3 件の工事により、新たに約 190 メートルの配水管の布設と芹沢取水場の整備を行いました。

カ 災害対策

岩井戸取水場の発電機の更新工事を行いました。

(4) 業務の状況

資料 1 - 2

(5) 決算状況の分析

資料 1 - 3

## 2 公共下水道事業

### (1) 総括

安定した汚水処理や浸水対策を推進するため、施設の維持管理や汚水処理、管路及び施設の整備、災害時対策などの事業を行いました。

昭和 56 年の供用開始から 40 年以上が経過した浄水管理センターについては、老朽化の進む汚泥処理監視制御設備の改築更新工事が完了しました。

汚水事業における管きよ整備は、令和 2 年度末までに概ね完了しており、事業の中心は整備、建設から維持管理、更新に移行しつつあり、下水道への新規の接続件数は以前より少なくなっています。

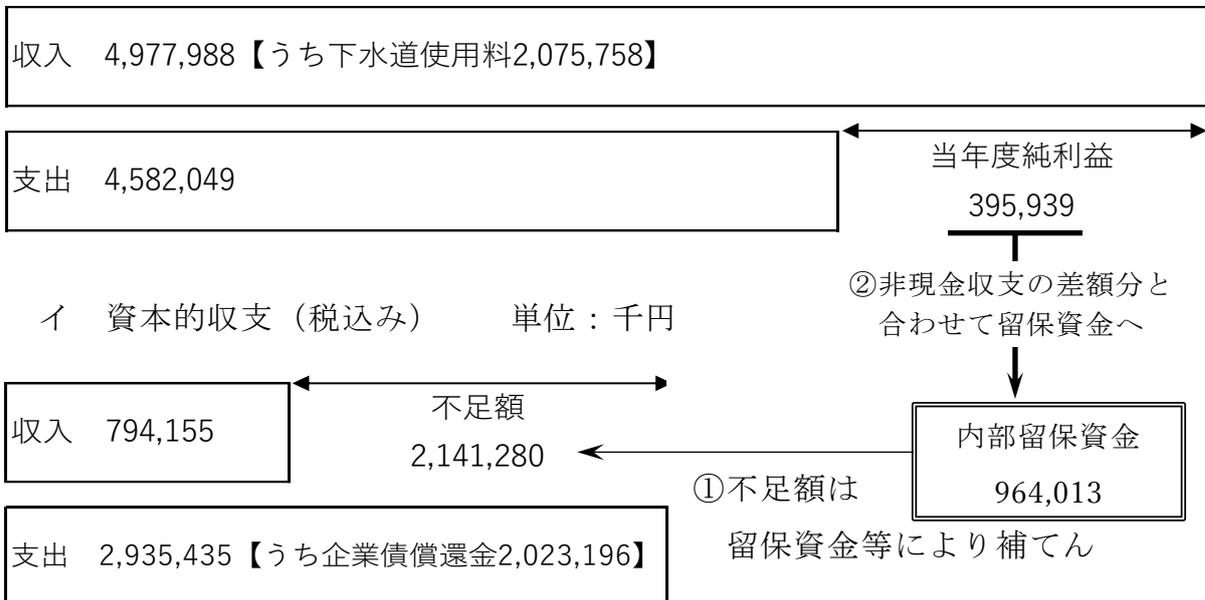
また、10 月 1 日には、汚水処理量の減少を背景に下水道使用料収入が減少する中、老朽化の進む下水道施設の整備等を着実に進めるため、使用料を改定しました。

事業の主たる財源である下水道使用料収入は、有収水量は減少していますが、使用料改定をしたため、前年度に比べ約 1,500 万円の増収となりました。

### (2) 決算状況

#### ア 収益的収支（税抜き）

単位：千円



収益的収支は、家庭などから出る汚水を処理して河川に放流したり、雨水を集水して川や水路などに流すために必要な支出と、その財源となる収入のことです。収入は、下水道使用料や雨水処理に伴う市からの負担金などの事業収入ですが、使用料の負担を抑制するため、市からの繰入金も収入しています。

資本的収支とは、下水道施設を新たに建設したり、整備・改良するために必要な事業費とその財源です。収入は主に国などからの補助金や借入金、工事負担金などです。

### (3) 主な事業成果

#### ア 管きよの維持管理

污水管きよ約 544 キロメートルと雨水管きよ約 61 キロメートル、そのほか 71 か所のマンホールポンプなどの施設について、適切に維持管理し、安定的な下水道サービスの提供と浸水被害等の防止に努めました。

#### イ 処理場の維持管理

浄水管理センターの処理水質は、下水道の放流水基準である B O D 15mg/L 以下、S S 40mg/L をいずれも満たし、金目川の水質保全に努めることができました。

また、污水の処理に伴い発生する汚泥の排出量は、伝熱式乾燥機を活用し以前より大幅に削減できており、乾燥汚泥のうち 548.4 トンは燃料の原料として売却しました。

なお、乾燥汚泥を含めた全ての汚泥について、コンポストや建設資材の原料として再資源化しています。

#### ウ 污水管きよの整備

未整備区域の整備完了に向けて、秦野駅南部（今泉）土地区画整理事業に合わせ、未整備となっていた事業地内の一部について整備を進めました。

#### エ 雨水管きよの整備

近年増加している局地的な大雨による浸水被害を軽減するため、西、南、大根・鶴巻地区などで進めた 4 件の工事などにより、約 420 メートルの整備を進めました。

#### オ 管きよの耐震化と更新

耐震化及び老朽化が進む管きよの機能を維持するため、4 件の工事などにより、約 570 メートルの改築更新と耐震化を進めました。

#### カ 施設の耐震化と更新

老朽化が進む処理場施設の耐震化と改築・増築を計画的に進めるため、令和 4 年度から 2 か年の継続事業として、浄水管理センターの汚泥処理監視制御設備の改築更新を実施しました。

(4) 業務の状況  
資料 1 - 2

(5) 決算状況の分析  
資料 1 - 3